

策定プロセス訪問調査事例

香川県引田町

香川県引田町

1. 引田町の概要

人口9226人、世帯数2925人、出生率4.7、合成特殊出生率1.0、婚姻率3.8。
香川県の東端。若者の流出とともに婚姻率・出生率が低下。急激な人口減少
高齢化が大きな課題。母子愛育会活動が活発。会員数約150人、若い母親が多い。

3. 訪問調査でわかった策定プロセスの売り

「大内保健所と町がそれぞれの役割を發揮しながら、住民参加（母子愛育会）
を意図した手作りの計画づくり」

4. 各策定段階の促進要因

1) 準備段階、合意形成

- ・保健所の所長と保健指導課長が管内の全ての町長に計画策定の必要性を説明
- ・策定にあたり、町企画課より「住民参加」と既存の総合計画をもとに今後の見通しについて指導をうけた。
- ・町の保健婦チーフが課長に計画策定の目的、必要性について説明、予算化
- ・保健婦が策定委員に個別の説明にまわり理解と協力を求めた。

2) ニーズ把握

- ・愛育班員がアンケート票を訪問して配布、後日回収。他町と比較検討（平成8年3歳児健診対象児の保護者 55件）
- ・専門委員会で専門分野からの問題提起と住民の意見が出るように配慮
- ・策定委員会の中に自治会やPTA会長、地区組織の代表が参加し討議
行政主導型にならないよう定員会の進行役は住民代表の中から決めた

5) 住民参加

- ・愛育会地区委員によるアンケート調査の実施
- ・策定委員会への参加と会の進行役

6) 保健所の役割

- ・保健所管内母子愛育会連絡協議会において調査分析を毎年継続実施
- ・計画策定にあたって、研修会を実施
- ・保健所保健婦研修会で管内の母子保健データを分析評価した資料を見直し？
- ・他県の母子保健計画の情報を収集し、資料提供
- ・所長と保健指導課長が、町長に計画策定の主旨について説明
- ・計画策定員会の専門委員会で保健所長が計画策定の目的、必要性を説明。
保健予防課、保健指導課が、県インテリプランや町の経年的な母子保健指標を説明
- ・管内の他町と情報交換できる機会をつくった

1. 計画策定にあたって

引田町母子保健計画

① 計画策定の基本理念

21世紀を目前にひかえ、少子・高齢化が進んでいる中、とかく子供をとりまく環境は、核家族化の進行や母親の就労の増加、又育児意識の変容などにより大きく変化しています。時代を担う子供たちが健やかに生まれ育つための体制の確立に向けた母子保健計画を策定し、効果的な施策の推進を図ることが急務となっています。

② 計画の性格

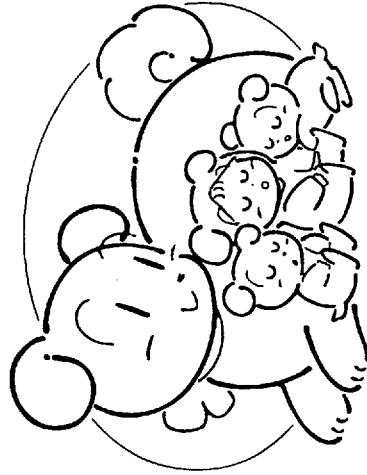
- この計画は第2次引田町総合計画との整合性を図り、21世紀を展望した将来像及びそれを達成するための指針とします。
- 住民にむけて指針を示すことにより理解と協力及び積極的な参加と行動を期待するものとしします。

③ 計画の期間

平成9年度を初年度とし、平成12年度（2000年）を目標年度とする4年間の計画です。
尚、計画の円滑且つ効果的な実施を図るため、毎年母子保健連絡協議会を開催し再検討を加え、見直しを行っていきます。

④ 計画の主体

この計画は主として、引田町が推進していくものですが、住民及び各関係機関で構成する策定委員会を組織し、その協力の基に推進していくものとしします。



2. 基本方針及び対策

安心して子供を生み育てることのできる子育て支援

- 両親を中心とした子育て施策の推進
 - 〔医療機関委託妊婦乳児健康診査の費用の負担軽減〕
 - 〔育児休業制度の取得〕
 - 〔乳幼児医療費公費負担制度の年齢引き上げ〕
 - 〔母親の健康に関する支援〕
- 家庭教育機能の充実
 - 〔家庭における子育て支援による母親の負担軽減〕
- 施設の整備と充実
 - 〔関係施設の整備と充実〕
- ニーズに対応した保育体制の整備
 - 〔子育て支援短期利用事業への取り組み〕
 - 〔低年齢児保育の延長保育の一体的保育〕
- 地区組織活動の活発化
 - 〔おれあい活動の推進〕

自らが選択し決定していくための支援

- 地域組織活動の活発化
 - 〔育児不安を気軽に話できる仲間づくり〕
 - 〔ボランティア活動のできる場の提供〕
 - 〔系統立てた育児学級の開催〕
 - 〔予防接種の個別接種の推進〕
 - 〔子供の時から自主性や社会性を育てる教育〕
 - 〔思春期教育〕
 - 〔心の健康への取り組みの強化〕
- 豊かな情操の養成と個性の伸長を目指した教育
 - 〔妊産婦訪問指導の充実〕
 - 〔総合相談窓口の開設と健康相談の充実〕
- 相談指導・援護活動の強化

健康的な生活習慣の確保

個人の健康状態に応じた保健医療施策の推進

- 相談指導・援護活動の強化
 - 〔生活習慣病予防対策の充実〕
 - 〔離乳食講習会の開催〕
 - 〔料理教室の開催〕
 - 〔規則正しい生活習慣の確立〕
 - 〔運動面の健康教育〕
 - 〔1歳半健診のう歯ゼロ〕
 - 〔3歳児健診のう歯50%以下〕
 - 〔2歳児歯科検診の導入〕
 - 〔食事とおむつの健康教育〕
 - 〔学校に広がる歯科保健指導の実施〕
 - 〔おむつがなまのゴミの推進〕
 - 〔75歳以上性疾患に関する再調査の実施〕
 - 〔乳幼児健康診査の徹底〕
 - 〔75歳以上性疾患に関する適切な情報の提供〕
 - 〔治療継続への支援〕
 - 〔生活面への支援〕
- 医療と保健・福祉・教育との連携を強化し生涯にわたる一貫した健康づくり対策

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (香川県引田町)

記載担当者名 (引田町一瀬本、北山、保健所一大山、高知県健康政策課一岩貞)

市町村行政内部の作業		住民参加		保健所の関与
市		町		村
<p>【Ⅰ】事例の概要</p> <p>◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、地理的条件、社会資源等 ・市町村の組織体性等 ・住民組織の成熟度等 ・県の取り組みと保健所の特徴 ・その他 	<p>・香川県の東の端に位置し、香川・徳島両県の中心部へ行くのに時間がかかる。地価が高い上に建て売り住宅も少なく職場や病院等の施設から遠いため若者の流出と共に婚姻率・出生率は低下し、急激な人口減少、高齢化が大きな課題となっている。(人口9226人、世帯数2925、出生率4.7、合成特殊出生率1.0、婚姻率3.8)</p> <p>・出生者の低下により子供同士のふれあう機会も減少。また核家族化により家族の中で子供を支援する人も減少し育児の孤立化も問題。</p> <p>・県東部で母子教育会活動が活発。町内で会員約150名。若い母親が多く、自分のこととしてとらえている。</p> <p>・老人保健福祉計画の反省から、担当者には今回は現状にあった実施可能な手作りの計画作成にしようという思いがあった。</p> <p>・平成2年度に総合計画、平成8年度には第2次総合計画としてスタートしている。母子保健計画策定にあたって町企画課より住民参加、既存の総合計画をもとに今後の見直しについて指導をうけた。</p>	<p>・保健所の東の端に位置し、香川・徳島両県の中心部へ行くのに時間がかかる。地価が高い上に建て売り住宅も少なく職場や病院等の施設から遠いため若者の流出と共に婚姻率・出生率は低下し、急激な人口減少、高齢化が大きな課題となっている。(人口9226人、世帯数2925、出生率4.7、合成特殊出生率1.0、婚姻率3.8)</p> <p>・出生者の低下により子供同士のふれあう機会も減少。また核家族化により家族の中で子供を支援する人も減少し育児の孤立化も問題。</p> <p>・県東部で母子教育会活動が活発。町内で会員約150名。若い母親が多く、自分のこととしてとらえている。</p> <p>・老人保健福祉計画の反省から、担当者には今回は現状にあった実施可能な手作りの計画作成にしようという思いがあった。</p> <p>・平成2年度に総合計画、平成8年度には第2次総合計画としてスタートしている。母子保健計画策定にあたって町企画課より住民参加、既存の総合計画をもとに今後の見直しについて指導をうけた。</p>	<p>・地区担当として町との連絡を密にしていた。</p> <p>・保健所保健婦研修会で管内全体の母子保健指標をデータ化、評価した資料を見直した。</p> <p>・大内保健所管内母子愛育会連絡協議会において母子保健サービスについてのアンケート調査を毎年継続的に行っていた。</p>	
<p>【Ⅱ】計画策定の準備</p> <p>◆計画策定の目的、策定の手法等の合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別調整、会議、研修、勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<p>・保健婦のチャーフが課長に計画策定の目的・必要性について説明し、予算化した。</p> <p>・県主催の研修会に町保健婦2名が受講した。</p> <p>・保健婦が企画課長より総合計画の内容及び経過について指導を受けた。母子保健は、これまでの計画を見直し、町担当者の手作りによる住民の声を大切にしたい。現状にあった計画づくりへの助言があった。総合計画について専門委員会でも説明した。</p> <p>・保健婦が個別に関係施設、各学校、保育所、医師、歯科医、主任児童委員、自治会長、各PTA会長、地区組織の代表及び関係課を回り、理解・協力を求め、策定委員として参画した。</p> <p>[苦勞したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画づくりブームの中でエンゼルプランや障害プランとの調整が思うようにならない。 ・平成9年度以降も上記プランの中でも検討を加えていくことになった。 	<p>母子愛育会合時に保健婦から母子保健計画について説明し、住民の声を反映してもらえようという積極的な意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親クラブのなかよし教室開催時に保健婦が参加し、座談会を開催した。 	<p>・母子保健計画策定にあたっての研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県の母子計画の情報を収集し、資料を提供した。 ・母子保健計画策定専門委員会において保健所長が計画策定の目的、必要性について説明した。 ・同委員会において保健婦ら、保健指導員が目的、主旨、県エンゼルプラン等について説明した。 ・引田町母子保健指標について感性的に提示し、説明した。 ・同会で検討した事項を保健所内に報告し、情報交換する。 	
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算 ・人的体制 ・時間の確保 ・その他 	<p>・保健環境課衛生係 事務職2名、保健婦2名、栄養士1名</p> <p>[苦勞したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定に関する補助制度が全くなし、人的確保をしてもならなかった。そのため事業との関係で作成開始時期が遅れた。(10月後半から本格的に開始) 	<p>・既存資料の提示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成7年度中に所長、保健指導員が管内全町の町長に計画策定の必要性と保健婦増員の必要性を説明した。 	<p>・人口動態や母子保健情報の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健計画を策定するために必要なアンケート内容になるように考慮した。 	
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーマン、範囲、手法 ・検討体制 (【Ⅱ】と同様) <p>②具体的手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存資料の活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査 	<p>・既存の資料を基に情報収集を行うと共に、保健所に協力を要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から提出されたアンケート調査結果(愛育会)を基に他町と比較検討をした。 ・アンケート調査-愛育会地区委員が訪問し、アンケート票を配布し、底記入式で回答してもらい後日回収。 ・平成8年度3歳児健康診査対象児の保護者 対象数55 ・専門委員会において各専門分野からの問題点を抽出してもらった。当町で働く住民としての意見も出してもらった。 ・出された多くの意見に対しての絞り込みは、保健婦が実現可能性を考え対策を立てられることを整理した。 <p>[苦勞したこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民や各分野から出された問題点やニーズをいかに整理し、計画を進めていけばよいのか、方向性を定めるのに困難した。 	<p>・母子教育会会長が地区委員を等して会員に対して母子保健サービスを依頼した。また、その調査結果を基に、町へ提供した。</p>	<p>・人口動態や母子保健情報の提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健計画を策定するために必要なアンケート内容になるように考慮した。 	

<p>【M】計画（施策）化 ① 具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>② 内容 ・ 具体の目標、数値目標・評価指標</p>	<p>・ 専門委員会を出された課題を基に保健師のチームが中心になって計画原案を作成し、策定委員会を開催。その会での問題点をまた持ち帰り、繰り返し検討を続けた（計6回）</p> <p>〔苦労したこと〕 ・ 国や県の母子保健計画がなかったので対策をただでいい段階で町だけではどうにもならない問題があり困った。（例えば、育児休業初めの普及への要領、アトピー性疾患への対策、環境面について）</p>	<p>・ 策定委員の中に自治会長やPTA会長、地区組織の代表が参加し討議した。 ・ 計画が行政主体になってしまわないよう、策定委員会の進行役は住民代表の中から決めてもらった。</p>	<p>・ 保健所の地区担当保健師が専門委員会に参加し保健師保健師として意見を述べた。 ・ 資料、指標の見方についてアドバイスした。 ・ 保健所長が策定委員会に参加し計画の中での保健所としての役割について助言した。 ・ 町の少子化対策としての平成8年度の具体的な事業として、中学生を対象とした赤ちゃんふれあい体験学習を保健所主体で開催した。</p>
<p>【V】計画の具体化 ・ 9年度予算への反映</p> <p>・ 計画の進行管理組織体制</p> <p>・ 住民、関係機関への周知等</p>	<p>・ 策定委員会のメンバーを母子保健連絡協議会に置き換え、継続的に見直しを行いさらにエンゼルプランを作成していくこととした。 ・ 計画のダイジェスト版をパンフレットにして自治会を通して全戸の配布した。また、母子教育委員会合時に計画策定の報告を行った。 ・ 新たに2事業（2才児歯科健診、育児学級）を平成9年度予算にあげた。</p> <p>〔苦労したこと〕 ・ 予算編成の時期と策定の時期が重なりあわただしかった。</p>	<p>・ 母子教育委員会合時に町保健師よりダイジェスト版で説明し、今後も母子教育委員会中心となって少子化に関するアンケート調査を行うことになった。また、同時に少子化の中で母子教育委員会として何を行っていくべきかについて調査することになった。</p>	<p>・ 心の健康相談や妊娠の健康問題（更年期障害）の事業に取り組みようになった。</p>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ（キーワーズも記入）</p>	<p>引田町総合計画を基に母子保健計画を策定した。サービスをより効果的に行うには各分野との連絡調整を図りながら、専門性をいかした役割を明確にしていくことが大切である。母子保健問題は行政だけでなく町全体で取り組むべき問題であり、そのためには住民と共に計画の見直しを図りながら実行していかねばならない。小規模町では、計画をたてるにしても新規事業を行うにしても、現在事業へのしわ寄せが皆無である。そのためは、十分なマンパワーの確保、またマンパワーの雇いあげ等に努める補助制度の確立を行って欲しい。</p> <p>・ 計画策定に取り組んだ成果として、思うこと。 積極的に支えてくれる事業者がいらないと計画策定は出来ない。 日々の業務について、総合計画の中で自分たちの担当する部分についての位置づけが出来た。計画をたてた責任を感じる。（手作りの良さ） 企画力をつける機会になった。 住民とのコミュニケーションの取り方など、頭の中でただ考えるだけでなく整理ができた。 視野が広くなり、自分自身の質向上の機会になった。</p>		